

グローバル人材を育成する デンマークの教育制度 ～民主主義を育む多様な学びとは～

埼玉県立新座総合技術高等学校教諭 並木 通男



世界一幸せな国デンマーク。2013年に発表された「世界幸福度レポート」によると、国民が幸福と感じる国の一番がデンマークでした。2位ノルウェー、3位スイス、4位オランダ、5位スウェーデンと、北欧が上位にあげられ、日本は43位でした。

幸せの度合とは「富裕度」、「社会保障制度の充実」、「健康的に生きる平均寿命」、「選択の自由度」、「多様性を受け入れる国民性」、「政治のクリーン度」などによって測られます。

昨年9月にデンマークを訪れる機会があり、幼稚園から大学までの教育の場を訪問するなかで、グローバルな人材を育成するヒントをもらいました。その一部をご紹介します。

□ デンマークひとくちメモ

デンマークは、九州と同じ広さの面積に、兵庫県の人口と同じ560万人が暮らしています。

家族構成は核家族が中心で、一定年齢を過ぎると子供は親から離れて暮らし、親も子供をあてにしません。また女性の就業率も大変高く、子育てをしやすい制度が充実しています。

国内市場が小さく、天然資源に乏しい環境ですが、風力発電が盛んで近隣諸国に電力を輸出しています。

従業員100人以下の中小企業が大半ですが、世界でも有名な製品、レゴやロイヤルコペンハーゲン等を輸出しており、GDPは世界6位と上位です。

デンマークでは「子供は国の大切な資源」であり「ドロップアウトを防ぐことは、社会的コストを最小限に抑える結果となる」という合理的な考えがあります。こうした思想に基づいた教育とはどのようなものか、誕生から社会人までを見てみましょう。

□ 誕生から保育園時代

誕生したほとんどの子どもたちは、3歳から幼稚園に通います。また0歳からの総合保育もありカウ

ンセリング指導も充実しています。訪問したロラン島の森の幼稚園では、その日の予定を子どもたちが決め、天候に関係なく一日中外で過ごしていました。木に登りブランコを楽しみ、決められた時間や勉強などではなく、自由な時間を過ごしています。デンマークには、子どもを自然の中で育てるという伝統的な考え方があります。

高等教育を受けた保育士が4名ほどおり、それぞれが大工や工作をしていて、子どもたちも見よう見まねでノミやカナヅチを使い、木を削っていました。

保育士は、細かなことは教えず、危険なことを自分で判断できるように優しく見守っています。遊びのなかで遊具などの取り合いが生じてても、自分たちで解決することを自然と学んでいるようでした。

園長先生の話。「ここでは、自分の持っている価値や自分とは何者なのかを探し出すこと。遊びの中で自分と違う他者の意見や行動を互いに認め合うこと。そうした中で民主主義を学ぶ場なのです」。

デンマークでは、子どものときから自由と自律の精神を身につけ、民主主義とは何かを身をもって学ぶことが教育の根幹となっていると強く感じました。自然が民主主義の感性を育む。素敵な思想ですね。



□ 義務教育時代（フォルケスコレ国民学校）

デンマークの学校は8月から新学期が始まります。国民学校とは、6歳から15歳の子供が通う、小学校と中学校を合わせた義務教育の学校をいいます。特徴的なのは小学校入学準備段階の0年生（6歳）があることです。1年生になる前の4月から学校に通い「学校が楽しい」と思うような準備期間を設けています。さらに、卒業後に10年生があり、進路に不安がある生徒や自由な時間を過ごしたい生徒など、4割程度が10年生を選びます。



その他に、「20名弱の少人数クラス」「ICT教育環境普及」同一敷地内にある「学童保育」社会スポーツなどの「学童クラブ」の充実があげられます。

学校では、ホームルームが民主主義を体得する大切な機会とされています。話し合いを重視し、自分の意見をはっきり述べることで、他人の意見に耳を傾けることの大切さを学びます。

デンマークの学習指導要領では、大きな目標が決まっていますが、細かな内容は指定されず、どのような方法で教えるかは、それぞれの学校や先生に委ねられています。6年生の「自然と科学」の授業では、5～6グループが、扇風機のしくみや発電のしくみ、風力発電の状況を調べるなど、それぞれのテーマに分かれて学習していました。

2014年の教育改革で、英語教育を小学校1年から、第2外国語を5年生から導入することになりましたが、外国語としての位置づけではなく、公用語として身につくように、楽しく実質的な内容となっています。

義務教育では試験はなく、成績の評価も基本的にありません。教師が授業中の発言や課題の内容を見て、保護者と本人に、数値ではなく具体的な言葉で伝えます。

高校進学では入学試験がありませんので、本人の意思と学校が妥当と認めるかが基準となります。高等学校の授業についていけるかどうかを丁寧に判断

し、すぐ高校へ進学せずに10年生として学校で学習するか、後で紹介するフリースクールなどで学習するかを判断します。

校長先生の話。「子供たちが学校を楽しんでいることが大切です」そうした生活の中で、「自分自身を知り、他者との関わり、自ら学ぶ力をどのように高めることができるかが重要です」。

日本の社会や教育制度が、学校や先生方をもっと信用して、先生が主体的に子どもの教育を考える環境が整えられないものか、考えさせられました。

□ 一般高校時代（ギムナジウム）

高等学校での学習は、最終的に大学進学の資格を得るためのコースに分かれています。下に示すように総合的な研究や医学・教育へ進みたい者、経済の専門を中心に大学でさらに高度な学習をめざす者などによって進学資格が分かれています。

一般総合進学（STX）・経済系進学（HHX）

技術系進学（HTY）・2年制進学（HF）

その他にバカロレア試験があります。



高等学校においても、知識の暗記を問う試験ではなく、課題のレポートや日頃の発言力など、日常の学習活動のなかで評価されています。

高等学校の卒業は、「スチューデント試験」と呼ばれる卒業国家試験に合格した者に大学入学の資格が与えられることを意味しています。卒業試験には筆記試験と口頭試験の2通りがあり、筆記試験4科目、口頭試験6科目が全国同一日に実施されます。

筆記試験は論文・分析形式で1日1科目を、4時間から5時間かけ、すべて外部試験官が判定します。口頭試験も1日1科目実施され、試験直前に与えられたテーマを20分で発表し、2人の試験官が評価し、成績点数が試験後に伝えられます。

こうしてすべての試験に合格して初めて卒業となります。この卒業試験の成績と高校在学中の評価によって、自分が希望する大学を選択し、願書を提出

することになります。大学入試はありませんので、各大学の合格レベルと自分の成績を考慮して提出しますが、成績が足らない学生には、一定期間を社会人として働くことにより、入学判定にポイントが与えられる制度になっているとのことでした。

高等学校の授業風景は、討論形式やグループワークが多く、教師の一方的な授業のかたちではありません。教師と意見を交わし、高度な発言力、自己開発力、連帯意識を鍛える厳しい環境ですが、こうした経験が、実践力や思考力を身につけたグローバルな人材を育てる土壤ではないでしょうか。

デンマークの高校生と話したとき、自分の意見をしっかりと持ち、発言していたのが印象的でした。

□ 職業教育専門学校時代

国民学校を卒業したもう一つの道が、職業教育専門学校への進学で、約4割の生徒が選択します。

一般的な基礎教育からスタートして、その後各自が専門を選択し技術を学びます。デンマークでは同じ技術を持つ職業であれば給料はどの企業でも同じです。

これは、ヨーロッパの「同一価値労働同一賃金」を原則としているからです。当然のことながらどの高校やどの大学を出ても、学歴による差はありません。したがって、すべての職業が資格によって認定され、共通の制度をおくヨーロッパの国では、同様の待遇で職業に就くことができます。



教育省が職業コースの内容、カリキュラム、教員資格の大枠を定め、雇用者・労働者・自治体・教師による「職業教育審議会」が細かな実施要項を定めます。

クラフトマンシップ（職人の技能）の伝統である徒弟訓練制度（ギルド）が踏襲されており、雇用者・労働組合による「職業委員会」が、実習内容や資格の認定テストを行います。

目的がはっきりしていて、労働市場のニーズに即した、実にフレキシブルな教育システムです。

職業教育専門学校は3年制で、テクニカルカレッジ（電子・通信・電気・映像・メディア・土木建設等）、コマーシャルカレッジ（事務・小売り・金融等）の教育を行っています。

デンマークでは18歳になると、成人として市に個人住民登録され、選挙権・被選挙権を得ます。選挙運動は、すべて討論会形式で行われ、選挙権を持つ生徒の多い高校で討論会が開催されることもめずらしくありません。すべての選挙の投票率が80%を下回ったことがなく90%を超えることもしばしばあるとのことで、民主主義に培われた国民の政治に対する関心の高さを表しています。

□ 大学時代

デンマークの大学は三つに分けられています。

長期高等機関は、研究職・医学・高等学校教員等の養成を、中期高等機関は、国民学校教員・幼児教育者・看護師・技術高等技師・ソーシャルワーカー等の養成を、短期高等機関は、高度な専門職・ビジネスカレッジ等の養成を目的としています。

大学も入学金・授業料は無料です。そのため学生には厳しい教育成果が求められ、学部によって30%～40%が大学を中退するとのことでした。

視察したロスキレ教員養成大学では、素晴らしい環境のなか、学生と教授の小グループが、オープンなスペースで議論を交わしていました。

デンマークでは教師のステータスが非常に高く、教育学部への入学は大変厳しいそうで、教師になる平均年齢が27歳と聞きました。教育実習期間は、通常4年間に5回ほど実施され、1回に約5週間～8週間程度行われ、研究授業も随時行われています。

また、グローバル社会における教員の立場が強く示され、高度な役割を求められています。

特徴的だったのが、教員資格を得た者は、3つの専門分野の指導が可能で、例えば経済とフランス語と体育を担当するといった具合です。



□ オルタナティブ教育での学び

従来の教育とは異なる、もう一つの学びの場を生徒に提供し、社会性や人間関係のあり方を学ぶ教育機関として、フリースクールがあります。

エフタスコレ（全寮制の義務教育段階）

エフタスコレとは、デンマーク独特の学校形態で全寮制の私立中学校のことです。14歳から18歳の生徒を対象とし、8年生～11年生水準の教育内容を学習します。エフタスコレは長い伝統を持ち、始めは地方の農家の子弟を対象に、基礎教育を施す目的で設立されました。現在では約250校あり、先ほど紹介しましたように、義務教育を終了して進路が未定の学生や、高等学校へ進む前に好きな学習をしたい生徒など4割の生徒がエフタスコレを卒業しています。

フォルケホイスコーレ（全寮制成人教育）

北欧独特の教育機関であるフォルケホイスコーレは、19世紀の詩人「近代デンマーク精神の父」といわれるニコライ・F・S・グルントヴィーによる教育思想を基にしています。

暗記や試験、競争原理、理念のない実学教育を否定し、対話と相互理解を基本とした教育理念を提唱して、今では北欧を代表する教育機関となりました。

ここでは、細かな指導はなく、各自が好きな分野を好きな方法で学ぶため、試験も資格ありません。すべて自らの責任の上に、自己開発を目的とした学びの場を提供し、教師は助言者として共に生活しています。



生産学校（職業訓練教育）

進路に迷っている、学校が合わない、学力が不足しているなどの理由でリタイアした16歳～24歳までの青年を対象に、期間1年間の地方自治体による教育機関で、園芸・調理・保育・ドラマ・IT・海洋など、給与を受けて訓練します。

このように、デンマークではいつでもやり直しができる教育環境を国民に提供しています。幼児教育から自分を見つめ、自ら学び、他者の意見を聞き、

共感し、責任と義務を負い、自由に行動することができる力を身につける生き方をしています。

□ グローバル人材を育むギャップイヤー制度とは

ギャップイヤーとは、大学の入学試験に合格した学生が、高校卒業後に一定の休学期間を得てから入学する制度で英国から始まりました。

デンマークでは高等学校を終えた半数以上の学生がこの時間を利用しています。大学卒業後から大学院進学前・就職前までの一定期間を利用することもあるそうで、リフレッシュを目的に自由な時間を過ごしています。

ボランティア活動や留学、旅行などで見聞を広めるなど、大学では得られない経験をすることが、国民の多くに推奨されています。この時期にアルバイトなどをして、今後の勉学のための資金を貯める人も多いそうですが、大半の若者が充電期間として、長期の海外旅行に出かけます。高校生に話を聞くとベトナムやカンボジア、日本などアジアへの旅行が多く、将来は国連やNGOで働きたいと夢を語っていました。ギャップイヤー制度は日本でも近年、グローバル人材の育成、修学力、就業力の向上への期待から、政府・企業・大学・NPO・若者達自身にも注目されてきています。

紙面の都合で一部しか紹介できませんでしたが、興味のある方は下記の関連サイトをご覧ください。

□ 視察先と関連サイト

- 1) 森の保育園（ロラン島）Myretuen
- 2) 小学校（フォルケスコレ：ホルビュ校）
- 3) 学童クラブ（ホルビュ校）
- 4) 全寮制学校（エフタスコレ）
<http://www.halstedhus.dk/>
- 5) 自由高校（私立高校）
<http://detfri.dk/>
<https://www.facebook.com/detfriegymnasium>
- 6) 最先端 ITC 公立普通高校（ギムナジウム）
<http://en.phmetropol.dk/about+us+wel>
- 7) 青年成人教育機関（フォルケフォイスコーレ）
<http://www.ipc.dk/>
- 8) 教員養成専門職大学（ロスキレ教員養成大学）
<http://www.ucsj.dk/>
- 9) デンマーク教育省 <http://eng.uvm.dk/>
- 10) ヘルシオン図書館 The Culture Yard
<http://www.kulturvaerftet.dk/english/>
- 11) 森の幼稚園全国ネットワーク（日本）
<http://www.morinoyouchien.org/>
- 12) 日本シュタイナー学校協会（日本）
<http://waldorf.jp/>
- 13) 日本ギャップイヤー推進機構協会（JGAP）
<http://japangap.jp/>
- 14) 未来教育会議 <http://miraikk.jp/>